

も莫大に上つて居り、之が製造設備も亦著しく増大するを必要としてゐます。

又前に申しましたやうに、飛行機の進歩が急激である爲に、ぐづぐづ製造してゐたのでは、部隊に行渡る迄にもう時代に遅れて廢式のものになつてしまひます。これが爲一舉に大量製産を行ふ設備をも必要とします。

以上の理由からして、その製造設備も昔の何倍又は十何倍といふ程に必要となつたのであります。

三 航空の進歩と優秀なる技術者の必要

昔は飛行機の一制式を定める迄には、何回も試験しては不備な點を改造して定め得られたものでありますから、少々劣等な設計者が設計しても、數次の試験によつて改造し得られたものであります。近頃はそんなことをしてゐては間に合ひませんから、一發必中式の設計を必要とし、従つて優秀な設計技術者を要する

ことは當然の成行なのであります。

又、製造に従事する技師以下工員に至る迄、他の工業のやうに永年同じものと同じ方法で作つてゐることが出来なく一つのものに漸く習熟しかけると、制式變更の爲、他のものに移らねばならぬといふことになりましたから、何でも出来るといふ素養の豊かな工場技術者を必要とするやうになつたのであります。

四 工業に志す青少年はよろしく航空工業へ

近時の如く航空工業が甚だ盛になつたといふ主なる原因は、大東亞戦争の爲ではなく、今迄述べたやうに航空一般の進歩の爲であります。

「航空工業は今はいいが、戦争が濟んだならば、不況となるだらう」と心配せられる人があるかも知れませんが、前申述べました如く、航空の利用は軍事上だけではありません、交通上・産業上・生活上等各方面から必要でありまして、將

來は益々盛んになるべき性質を有してゐるものであります。工業によつて身を立
て邦家に報ひようとする青少年は、前途益々洋々たるこの航空工業に投ぜられる
ことは、國家の爲、皆様の爲、慶祝すべきでありまして私は重ねて諸君に御勧め
いたすのであります。

第十四章 歐洲航空小話

一 各國航空充備の方針及び宣言

獨逸の宣言

「海が英國の生命線ならば、空が獨逸の生命線なり」
獨逸の空軍大臣ゲーリング元帥はヒットラー氏の右の腕であり、ヒットラー氏
亡き後は、其の跡を繼ぐべき人と目せられる現在獨逸の大立者でありまして、第
一次歐洲大戰時には、優秀な飛行聯隊長をして居られた人であります。

伊太利の方針

「海陸守空攻」

伊太利の空軍大臣は、イタロバルボ氏でありました。之亦ムツソリー氏の右の腕と目せられ、元帥であり乍ら、今次の大戦には、自ら率先陣頭に立ち、伊太利空軍を鼓舞激勵々たる戦果を収めた勇將でありましたが、先程遂に空中戦闘の華と散られました。誠に伊太利の爲に惜しみても尙餘りある次第でありまして、今日の伊太利空軍の進歩發達を見るにつけて、元帥の功績はいよ／＼光輝を放つてゐるのであります。又ムツソリーニ首相の子息は空中勤務者として昨年殉職せられました。斯かる點からみるも、如何に伊太利空軍の戦闘意識が旺盛であるかがうかゞはれる次第であります。

蘇聯國の方針

「舉國航空」

蘇聯國內には至る所に舉國航空の字が貼出はりだされてあります。如何に蘇聯國が航空に心血をそゝいでゐるかがうかゞはれるのであります。

二 獨逸のリヒトホーヘン聯隊

中尉男爵リヒトホーヘン氏は、第一次歐洲大戦時の空の勇者でありまして、當時まだ飛行機が僅かしかかつた時代に於いて、一人で英佛軍の飛行機を撃墜したこと八十機に及び、後には自分の愛機を赤く塗つて「リヒトホーヘン此處に在り、我と思はん者は來れ」といふ目標をあざやかに示しました所が、英佛軍の飛行機は此の赤塗機を遠望すると、戦はずして逃げてしまつたもので、これが有名なリヒトホーヘンの赤塗機であります。此の空の勇士も惜むらくは、終には英國の名も無き雜兵の爲撃墜せられて、佛國領土内で華と散りましたが、敵乍らも其の英名を惜んだ佛國は、其の英靈を鄭重ていちょうに葬り、戦時中に拘らず、わざわざ中立國を経て獨逸に通報したものであります。

日支事變頃迄は若い空中勤務者に、君等は何になりたいかと尋ねると、齊しく

「リヒトホーヘンの如くなりたくあります」と答へたものであります。

其の後ヒットラー氏は、自分の自家用愛機をリヒトホーヘン號と命名し、此の空の勇士と共に起居するの心持となり、又、再軍備宣言後、リヒトホーヘン聯隊といふ名譽聯隊を設け、永久に空の勇士を記念し、國民悉くがリヒトホーヘンたる如く獎勵したものであります。

名譽聯隊とは歴戦の効顯著なる聯隊とか、或は國家の危急を救つた聯隊などに附けられる名前で、獨逸空中勤務者は、此のリヒトホーヘン聯隊附となるのを無上の光榮としてゐるのであります。

我が明野陸軍飛行學校は、軍神加藤少將閣下が永年教官として薫育に努められた所でありますが、今から數年前私が同校教官時代に獨逸からリヒトホーヘン聯隊の帽章と歌とを贈つてくれて、「日本のリヒトホーヘン聯隊に相當するものは貴校と見做すから、今後大いに仲よく致しませう」と好意を示されたことがあります。

ました。

我が大日本帝國の軍隊は、何れの聯隊も皆名譽聯隊であります。此の明野陸軍飛行學校から加藤軍神が出られたことを思ふにつけ、同校に獨逸リヒトホーヘン聯隊の寄せられた好意も想起せられて、一の不思議な因縁であると感慨無量なるものがあるのであります。

三 獨逸空軍兵營の詩

再軍備宣言後の獨逸空軍の兵營に行くと、入口の一番目立つ所に、左の詩が掲出せられてあります。

我等國に殉ぜし空の戰士は、永久に唯我等自身の力に依つて勝者として留らん。
 (「死んでも國を護つて居りますぞ」といふ意味となりませう。)

國民よ、大空に向かつて飛べ、而して汝等自らの力に依つて再び勝者の榮を得

よ。

直譯して日本語で書くと大した文章ではありませんが、之を獨逸語で韻を踏んで、ウイヤ、トータン。フリーゲル、ウイヤ、ウルデン、ジーゲル……といふやうに讀むと、實に凄壯な感じがして、思はず襟を正さずには居られない氣持となつてきます。

四 英艦隊を慄へ上らせた伊太利の航空必死隊

エチオピア事件の當初、英國は例によつて地中海の空軍を増加し、大艦隊を送つて伊太利をおどしつけたのであります。茲に於いてムツソリニー氏は爆彈を抱いて敵艦に自爆に行く航空必死隊を募集して、其の志願者の住所姓名を毎日新聞紙上に發表した所が、國民の愛國心は爆發して、これを志願する青年は引きも切らず、僅か數日の間に千數百名に達しました。

此の景況を見て慄へ上つたのは英國であります。

英國が地中海艦隊をして、こそこそと逃げるが如く引揚げしめた原因も亦之であつたのであります。

右必死隊は新聞で住所姓名を發表した爲、賣名目的の人がいくらかあつたかも知れませんが、元來伊太利は熱血男兒の多い國であります。周圍環海、火山多く、髪の毛は黒く、言語に母音のついてゐることから、うどん(マカロニー)を食ふ所まで、我が大日本帝國とよく似た所があります。

第一次歐洲大戰にも、魚雷に跨つて泳いで、敵艦に對し爆彈三勇士と同じ行動を行つた勇士のあつたことは有名な話であります。

之等から考へると、永年英國の地中海艦隊に苦しめられて居た伊太利國民として、新興の意氣に燃えつつあつた際として、此の必死隊も決して賣名的のものでなかつたと存じます。頼もしい國を同盟國に持つことは、御互に喜ばしいことであ

ります。

只茲で一言申しておきますが、航空必死隊の提唱の元祖は、我が大日本帝國であります。昭和三年頃即ち伊太利に先だつこと約十年前に、もう研究が出来上つてゐまして、其の實現が大東亞戦争時であつたことを、附記して皆さんの注意を喚起したのであります。

第十六章 航空の隆替と國家の盛衰

航空の發達する國は國家が隆盛になり、航空の衰微した國は國家が衰亡してゐます。

世界に於いて旭日の昇る如き國運隆々たる國といへば、東では日本、西では獨逸及び伊太利であり、しかも此の三國は同盟國であります。又、世界に於いて日本を除いて航空の質と量とに於いて、第一は獨逸であり、次は伊太利であります。即ち今や洋の東西に覇を唱へつつある我等同盟諸國は、亦共に世界一流の航空國なのであります。

一 獨 逸

獨逸は今から二十幾年前の第一次歐洲大戰の結果、實に到底耐へられないむごい平和條約を押しつけられたのでした。獨逸國民に傑出した獨逸魂があつたでこそ獨逸の今日を致したのであるが、此の氣魄のない國であつたならば、其の數年後には、此の儘で自然に滅びてしまふことでありましたせう。

航空の方も飛行機は盡く外國に分け取りせられるし、工場は皆潰され、加ふるに軍用飛行機は勿論、實用し得る程度の馬力を持つた飛行機の製作及び飛行は、一切禁止せられてしまつたのであります。

然るに、流石は我が同盟國たる獨逸であります。此の國歩艱難の時代から「獨逸の復興、獨逸空軍の再建」を國策とし、官も、民も、學者も、工業家も、又老も、幼も、悉く此の目的達成の爲に實に血と涙の努力を以て、營々として努めに努めたのであります。

苦心經營約二十年。準備は盡く周到に出來上りました。表面は空軍は零であり

ますが、もう作らうと思へば、いつでも當時に於いて世界一の空軍が作り得るといふ、十分な自信が出來るや、昭和十年三月一日に有名な獨逸の再軍備宣言なるものを世界に公表しました。之は早く申せば「獨逸は昔の平和條約などに拘らず、自分の思ふ通りの軍備を勝手に作りますぞ。」といふものであります。もう諸準備は悉く出來てあつたのでありますから、宣言と同時に立派な軍備が出來上つたのであります。

獨逸の再軍備宣言から丸三年後、昭和十三年にポーランド事件というて、獨逸と今は獨逸に亡ぼされたポーランドといふ國との間に悶着もんちやくが起り、將に戦争にならうとしたのであります。其の時に英國は「ポーランドの爲にはどんな援助でもするぞ。」といつて、之を世界に宣言すると共に、獨逸を喝かしたのであります。然るに獨逸には已に自信があります。英佛の喝し位には乗りません。それがために愈々獨逸戦争となりかけたのであります。

さて、英國が獨逸の軍備を調べて見ると、此處で始めて天地が覆る程に驚いたのであります。それは再軍備宣言後三ヶ年しか経たぬ獨逸の空軍力が、英佛聯合の空軍力よりも大であることに気がついたが爲であります。

さあ大變、時の英國總理大臣某は大急ぎでヒットラー氏の許へあやまりに行つたのであります。「前言は取消します。ポーランドは獨逸の思ふ存分にして下さい。其の代りにどうぞ英國に對して戰爭を仕掛けぬやうにして下さい。」と、しかも汽船で行つては間に合はぬといふので、歳七十三才で始めて飛行機に乗つて大急ぎで行き、ミュンヘン會議となつたのです。此に於いて終に獨逸は戦はずしてポーランドに對する國策を堂々と實行し得たのであります。

皆さん次のやうなことは、天地が倒になつてもありませんが、假りにあつたとしたらどう思はれますか。米國が「滿洲を米國の自由にするぞ。嫌ならば日本に戰爭を仕掛けるぞ。」というて喝しに來た場合に、日本の總理大臣が大急ぎで米

國に飛んでゆき、大統領に「滿洲は米國の自由に任しますから、どうか日本に對して戰爭を仕掛けぬやうに勘辨して下さい。」とあやまるやうなことがあつたらばどうですか。

然るに英國は獨逸の航空兵力の爲に斯かることを餘議なくしたのであります。恐らくこんな屈辱は英國始つて以來始めてのことであり、英國として世界に信用を墜したことは一通りではありません。

之に反し、獨逸は之によつて新興獨逸の威信を天下に示し、堂々と國策を實行し得たのであります。二十幾年、獨逸空軍の再建を目標に、食ふ物も喰はずに上下擧つて血と涙とを以て、孜々として努めて來た獨逸國民は、如何に満足し、如何に嬉しかつたこととせう。

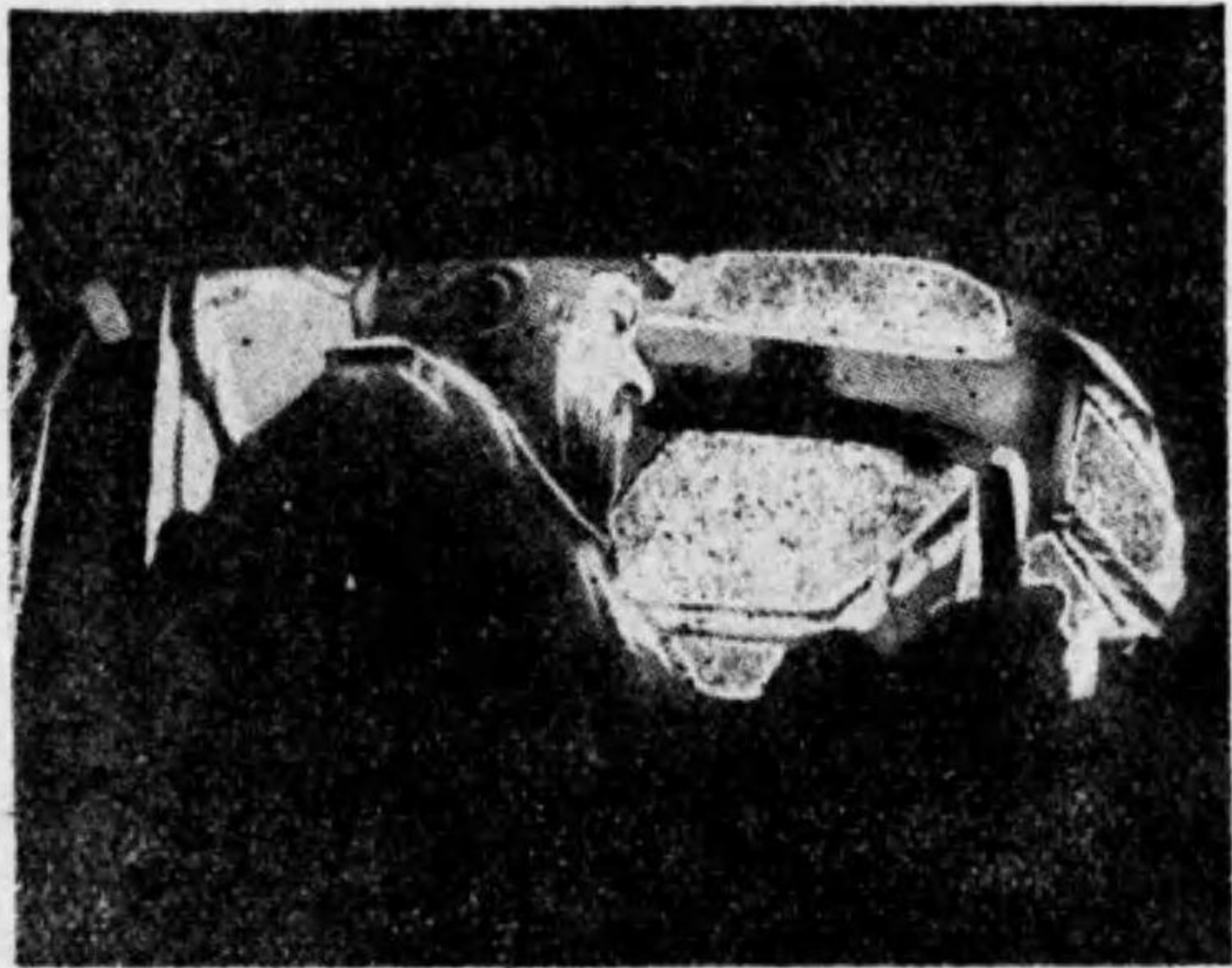
二 伊 太 利

歐米諸國に於いて獨逸に次ぐ航空國は伊太利であるといへば、大抵の人は意外に思はれるかも知れませんが、之が事實であります。

第一次歐洲大戰後暫くの間、亡びかけてゐた伊太利が今や新進の世界一等國となり、國運隆々たるのは全く航空立國の御蔭であります。

第一次歐洲大戰後の伊太利はロシアから不良思想が國內へ流れ込み、國民は皇帝に退位を迫るし、國內は乞食や不良の徒が横行し、此の儘でゆけば今頃は伊太利は蘇聯の一部になつてゐるかも知れないといふ程墮落したのであります。

第四十七圖
自ら操縦に當るイタロ・バルボ將軍



飛行機も第一次歐洲大戰の終頃には三千餘機あつたのが、當時では殆んど飛べない舊式機が僅かに八十機といふ所にまで成り下つたものであります。

國家の此の有様を嘆き、國家を救ふべく奮起せられたのが、ムッソリニー氏であります。

ムッソリニー氏が政治を預るやうになつて、第一に着眼せられたことは、「地中海に於ける英國艦隊勢力の驅逐」でありました。今迄伊太利が何か自分の國策を行ふとすると、英國がいつでも地中海に艦隊を送つて伊太利を喝しつけ、實行させないのであります。個人でも、自分の希望をつねに他人が邪魔して一つも行へぬといふことになる、つい精神がぐれてしまふと同様、伊太利が今日の如く墮落したのは、英國の壓迫により、其の國策の實行が出来なかつたが爲であると觀破せられたのであります。流石は偉いムッソリニー氏であります。

然るに、永年世界一を誇つてゐる英國に對し、貧乏な伊太利が海軍を以て對抗

するのは不利でありますから、此に有名な「海陸守空攻」といふ國策、即ち陸海軍は辛うじて自國を守る丈けにし、空軍を以て攻勢的なものにするといふことを立案實行せられたものであります。

此の國策の立案及び實行に當り、ムツソリニー氏の右の腕となつて活動した人は故空軍大臣元帥イタロ・バルボ氏でありました。バルボ氏はこれが爲に自ら空中勤務者とり、又、ムツソリニー氏も自らの二男を空中勤務者とし、以て範を示されたのであります。バルボ氏は亦空軍將校の典型といふやうな人で、大臣元帥であり乍ら、自ら飛行機に乗つて空中戦闘を行はれるやうな實行的な人で、今次の歐洲大戰では自ら率先陣頭に立ち、空中戦闘で戦死せられました。ムツソリニー氏の令息も航空事故で殉職せられました。

何しろ國が潰れかけて居り、乞食の國、賸金の國にせがねといはれた當時の伊太利です。これが僅か舊式飛行機八十機しか無かつた所から、數年の間に世界一二の航空國

とまで成つたのであります。如何に政府も、國民も血と涙の苦勞をしたかは想像し得ることと存じます。

かくて血涙數年、もう自信も出來たといふ時機に至り、かねがね國民の熱望してゐたエチオピア遠征を企てたのであります。

さうすると、又、英國は例により地中海に艦隊を増遣して伊太利を包圍し「エチオピアを保護する爲には英國はどんな努力でもするぞ。」と伊太利を嚇しつけ、且つ之を世界に公言したのであります。

然るに、伊太利も已に昔の伊太利ではありません。「然らば地中海上に於いて、英國の海軍と伊太利の空軍と一勝負しませうか。」と氣勢を示した所が、大きなことをいうてゐた英國が、地中海からこそそこそと逃げるやうに艦隊を引上げてしまひ、終に伊太利は永年の國策たるエチオピア遠征を成し遂げたのであります。當時伊太利で編成せられた有志者から成る航空必死隊―爆彈を積んだ儘英國地中海

海艦隊に自爆に行く勇士——は終に出動せぬ中に、英國艦隊は逃げてしまひましたが、之には傲慢無禮な英國も怖毛を生じたといふことであります。

當時外國雜誌に、面白い漫畫が描いてありました。足の大きな黒ん坊が、英國旗を掲げた軍艦に乗つてゐる畫で、註譯して曰く「英國がエチオピアの爲にどんな努力でもすると、世界に公言したのを何かと思つたら、國が亡びてからエチオピア廢帝を英國の軍艦に乗せて逃げてやることであつたのか。」と、これでは大英帝國の威信も何ありません、全く全世界から冷笑せられたものであります。

米英が嚇しさへすれば、相手が凹むだらうと考へて掛つた大東亞戦争とよく似てゐます。

斯くて伊太利はエチオピア遠征に成功するし、國運は隆々として榮え、潰れかけてゐた國が今や世界一等國となつたのであります。

全く海陸守空攻の先見に基き、艱難辛苦を冒して國家が航空充備を計つたが爲

であります。

「空を制するものは世界を制す。」

空軍の興隆には全力を盡さねばなりません。

第十七章 空中勤務者の養成と補充

一 空中勤務者補充の困難な所以

戦時空中勤務者の補充が續かなければ、戦争を續けることが出來ないものであつて、平時から各國が色々と苦しんで畫策しつつあるのは、戦時に於ける空中勤務者補充の問題であります。

何故に空中勤務者の補充が六ヶ敷しいか。

- (1) 育成に長年月を要すること。
- (2) 空中勤務を久しく離れてゐた在郷者は急場の間に合はぬこと。
- (3) 地上若しくは海上部隊に比し上級練達の士の戦死率の多いこと。

等であります。

二 航空勤務者の育成

陸軍の少年飛行兵、海軍の豫科練習生及び遞信省乗員養成所の修業年限を御覽になつてもわかるやうに空中勤務者の養成には三年内外を必要とします。しかも三年内外修業して漸く卒業したものの程度は、陸軍の歩兵でいへば初年兵第一期検閲を終了したといふ程度で、まだまだほんたうの半人前であつて、之から飛行部隊に配屬せられて數年間は半分實務、半分教育といふ状態になり、陸軍では飛行學校の乙種學生、海軍豫科練習生出身者は一等兵曹時代の練習航空隊専修學生（一ヶ年）、乗員養成所出身者にあつては、其の後に於ける中央乗員養成所（一ヶ年）を終つて先づ一人前の空中勤務者といへる程度であります。

海軍で航空母艦の飛行機に乗り得るのは豫科練習生入校七八年の後であります。

編隊長、編隊長群長或は遠距離偵察の空中勤務者などは中々五年や七年の空中勤務では満足にとまるものではありません。

空中勤務の實務二十数年の老練な人々にあつても、まだ腹の底から自信が得られないことが相當あります。如何なる方面でもさうであります。殊に空中勤務丈けは一生涯行つても、之で卒業といふことは出来ないものであるといふことを、私は常に痛感して居ります。

整備の方でも、飛行部隊の整備兵位熱心に働くものは、他に無い程でありましたが、それでも二年兵役時代の兵の整備した飛行機には随分怪しいのがあり、軍隊内に多年に亘つて習熟し得る職工を置かねばならぬといふ状態の時があつたのでありまして、通信の如きも昔は器材も悪かつたが、中年過から始めて二年兵役の兵では現役間には中々一人前になれなく、所謂無線通信でなく「無線通じん」で終つたものであります。之等の理由から少年飛行兵中に整備科、通信科を設

けられた次第であります。

爆撃編隊或は偵察編隊に對し、編隊長機を撃墜すれば其の全編隊は一時頭を千切られた蛇のやうになるものでありますから、敵戦闘隊でも、高射銃砲隊でも編隊長機の撃墜に全力を擧げること、恰も艦隊の旗艦に敵弾が集中されると同じであります。

又、戦闘隊は編隊長が最先に立つて敵中に突込むものでありますから、之亦編隊長機が撃墜せられることが多いものであります。

陸軍部隊では聯隊長が戦死する、旅團長が戦死するといふ如き場合は、非常な激戦で、其の部隊が殆んど全滅するのではないかと思はれるやうな場合であります。せうが、飛行部隊では上級者の方が却つて戦死率が多いのであります。

戦闘飛行隊の神様と、平常から呼ばれた加藤軍神が戦死せられたのも之が爲であり、南郷少佐の壯烈なる戦死等幾多の尊き編隊長を失つてゐることは、皆さん

のよく御承知のことでありませう。

前にも申しました如く、伊太利では空軍大臣元帥バルボ氏が、今次の大戦で率先陣頭指揮に當られ、戦死を遂げてゐるのであります。

敵ではありますが、ハワイの米國航空部隊總指揮官某少將も先般戦死しました。此等が陸海軍航空部隊の特性であります。

三 米國空軍の大擴張説決して恐るるに足らず

噂によると、米國は大東亞戦争に備へる爲、本年末迄に飛行機六萬機、來年は十二萬五千機を作るやうに計畫し、喧傳をしてゐるといふことであります。何分喧傳を以てする國でありますからどこ迄がほんたうかどうかはわかりませんが。

大東亞戦争はまだほんの糸口であります。今から敵國を侮り、有頂天になることは非常につゝしまねばならぬことでありますが、然し、又敵に對し、恐れを抱

くことは尙更よくないことであります。

熟れにしても米國空軍の擴張は、決して心配するに足らないことを、私は明言します。何故か、

航空兵力の源は人であります。飛行機を何十萬作つても飛行機丈ければ空軍が出来るものではありません。

一説では米國は九ヶ月の速成教育で、空中勤務者の大量補充を行ふといふことであります。

九ヶ月で何が出来るか、先祖傳來の大和魂をうけつぎ、加ふるに二十年來先輩の血涙の苦心に成る傳統の上に立つ我が大日本帝國に於いてすら、空中勤務者をどうにか辛うじて一人前足らずに養成するのに丸三年以上は掛るものであります。それを精神教育の基礎もないヤンキーが、僅か九ヶ月位で速成して何が出来るか。私が米國の飛行機の大量生産説は、決して顧慮するに足るものでないといふ所

以は此處に在ります。

由來日本でも空軍といふとすぐ飛行機と考へ、飛行機さへあれば空軍が出来るものと考へる人が今でもあります。勿論飛行機が無くては空軍は出来ませんが、元來飛行機なるものは人の使ふ一の道具にすぎないものであります。根本は人に在り、又人の根本は其の精神にあります。支那事變から大東亞戦争にかけての我が大日本帝國陸海航空部隊の彼の赫々たる戦果も、實に精神によるものが頗る大であります。

どうか皆様も此の精神の修養を第一として、常々心掛けられんことを、國家の爲切望する次第であります。

四 戦争が長びくに伴ふ航空戦力の低下と青少年の覺悟

戦争が永引くに從つて、平時より永年に亘つて周到に教育せられてゐた人々が漸次戦死する爲、軍隊が弱くなることを軍隊の素質低下といひます。特に養成に永年掛る航空部隊では素質低下を生じ易いのであります。

第一次歐洲大戦の末期には、流石獨逸の空中勤務者ですら著しく素質低下を來たし、ロンドン・パリーの空襲に當つては防備堅固なる之等都市への突入をためらふといふものが多數出來、其の六割迄はロンドン・パリーの郊外或は途中の経路上に爆弾を投下して、さもロンドン・パリーを空襲したかのやうな顔をして歸つたものが出來たのであります。

英・佛ではどうであつたかわかりませんが、佛國では爆撃に行つたら必ず彈着點の寫眞を撮して來いと命ずるやうになつたことから考へると、矢張り相當素質低下に苦しんだものと思はれます。

大東亞戦争はまだまだ之からであります。若し我が陸海航空部隊が將來共素質

低下を來すやうなことがあれば、今日迄に身を捨てて成果を擧げた人々に申譯な
いばかりでなく、實に國家の爲、ゆゝしいことと存じます。而して其の責任は一
に皆様にあります。皆様は徒らに現在の我が航空部隊の武勳を謳歌してゐる場合
ではありません。自ら求めて航空を理解し、進んで航空精神の修養に努めるべき
であります。

「附録」

航空勤務者となるには

陸軍海軍及び軍以外の航空勤
務者を希望される方々のために
左に略記します。

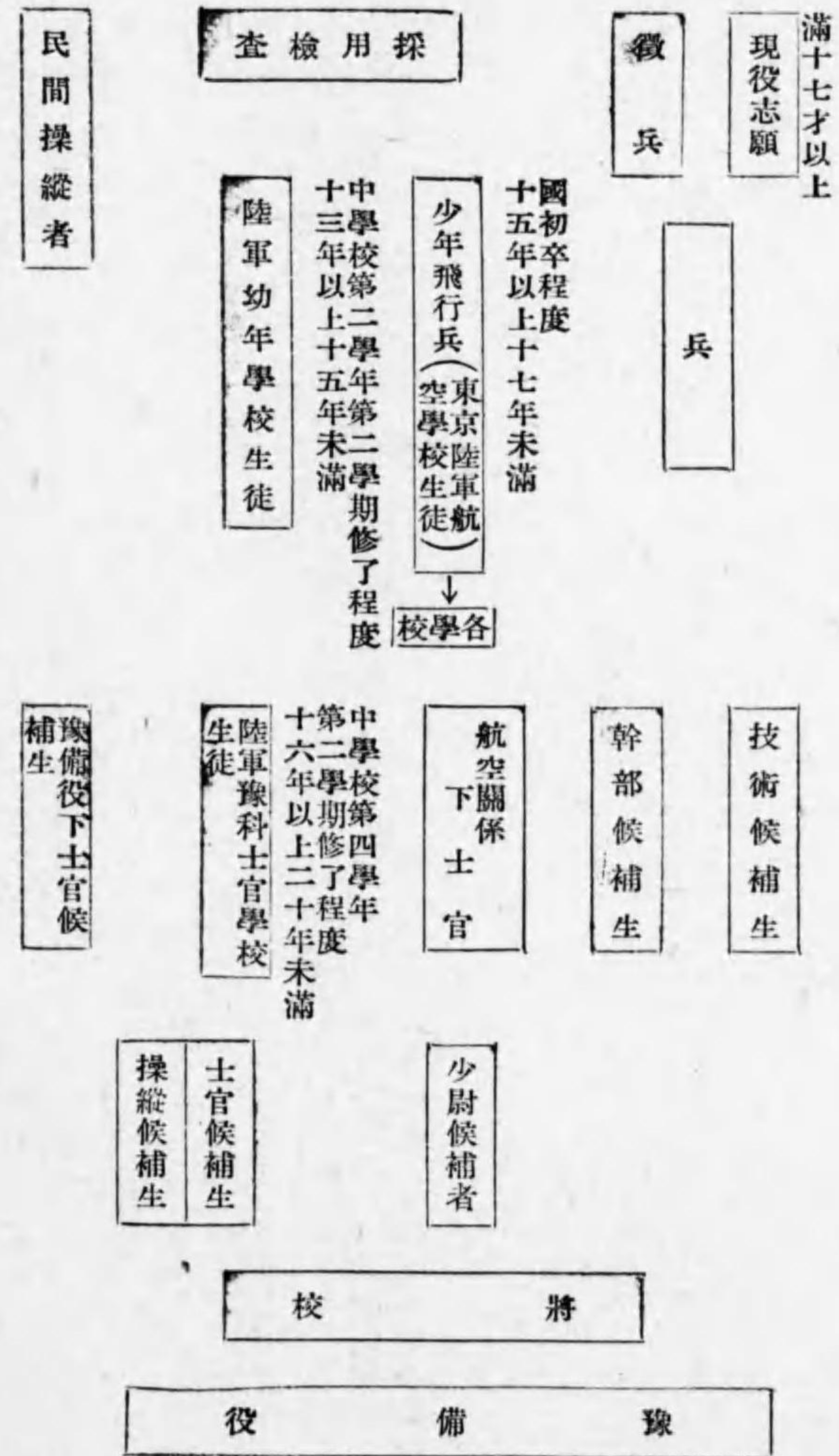


第四十八圖
少年のあこがれ
(陸軍飛行機操縦術
習得徽章)
(下士官用)

係又は聯隊區司令部(陸軍)海軍人事部等で、又軍以外のものに就いては乗員養成
所又は航空局及び飛行協會等で萬事御相談の相手になり、且つ志願に就いて御世
話下されます。

此處で航空勤務者といふのは、空中勤務者及び地上勤務者を合せた航空關係者
の全部を指すものであります。

一 陸軍一般



二、陸海軍少年飛行兵経路

區分	分科	入校より卒業迄の年數	卒業直後の官等	將校となるには	採用試験の學科程度
陸軍	少年飛行兵	三年	兵長	累進せる後航空士官學校を受験し合格者は兵長より六七年後少尉となる	國民學校初卒程度
海軍	乙種豫科練習生 操縦	三年半	二等飛行兵曹	二等飛行兵曹のとき約一年專習學生を受験し合格者は兵曹長を経て將校に特進す	概ね國民學校高卒程度
軍	甲種豫科練習生 偵察	二年半	二等飛行兵曹		中學三年終了程度

三、非軍用航空勤務者出身経路

區分	科目	入校より卒業迄の年數	卒業後の資格	採用試験の學科程度
地方乗員養成所(内地に十ヶ所)	操縦及整備兵	國民學校初等科終了者 五年	二等飛行機操縦士、二等航空士及滑空士	上記

附錄 航空勤務者となるには

中央乗員養成所 (全國一ヶ所)	機 操縦科は地方 乗員養成所出 のもののみ	二ヶ年	航空機關士	中等學校卒業者
臨時航空機操縦生	操縦	一ヶ年	二等飛行機操縦士及二等航空士	中等學校二年終了又は國高終了者

陸軍少年飛行兵或は海軍豫科練習生として入校してから、陸海軍共大體八九年か十年位経てば將校になり得るもので、歳でいへば二十六七歳で少尉であります。友達が親から莫大な學資金を出させて大學校を漸く卒業するかしない頃に、こちらは國民學校を卒業した丈で國家の御役に立ちつつ已に陸海軍將校であります。今年入校する陸軍少年飛行兵は十四期生であります。一期生はもう中尉であります。

又友達が徴兵で行つて初年兵でうろろうして居る頃には已に下士官となり、空

軍の華として戰場で活躍して赫々たる武勳を奏し得るものであります。

支那事變で空中で航空機關銃の故障を生じたに拘らず、攻撃精神の一點張を以て敵を究追し、敵機を地面に叩きつけ、敵の人機體共に粉碎せしめて勇名を新聞紙上にうたはれた金丸軍曹、體當りで敵機を撃墜した齋藤曹長等は漸く男子の丁年を越したばかりで、紅顔未だ失せざる年頃の少年飛行兵出身者であり、金鷄勳章を拜受し英名を全國に謳はれたものであります。

大東亞戰爭に於いて、つねに赫々の戦果をあげつつある我が陸海航空部隊の下士官の半數以上は、孰れも少年飛行兵出身の繪に描いた敦盛のやうな、うら若い紅顔の若武者であります。

花は櫻木、人は武士。其の武士の華が少年飛行兵出身の若武者であります。

昭和十八年四月一日印刷
昭和十八年四月五日第一刷發行(三千部)

壹圓五拾錢
送料拾六錢

著者 柴田眞三郎

發行者 岡本政一
大阪市西區新町南通三丁目四八番地

印刷者 井下精一郎
大阪市西區阿波座中通二丁目四番地
井下書籍印刷所(西大三五)

航空物語
(あ 三六〇二二九)



發行所

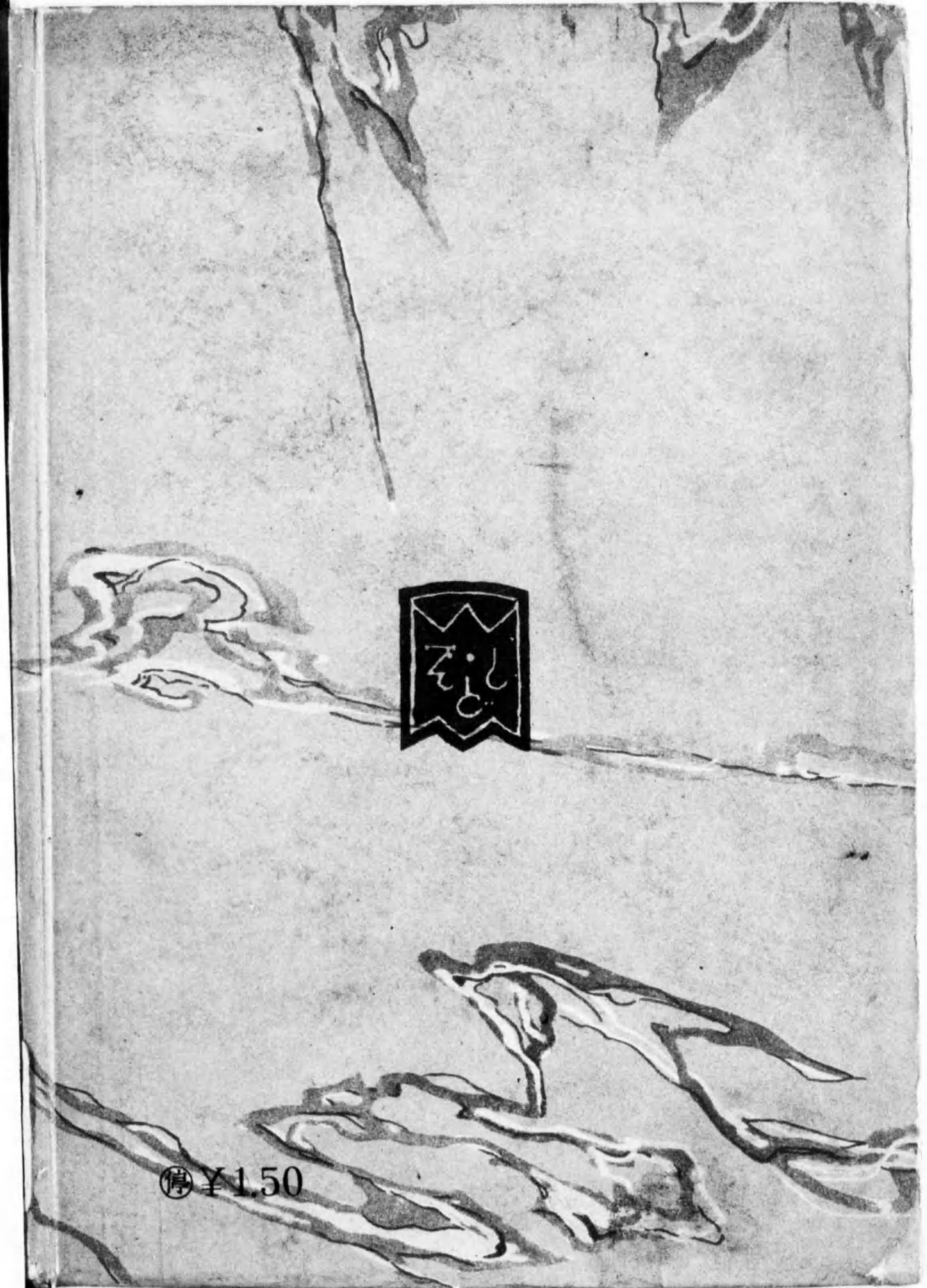
株式會社 增進堂
大阪市西區新町南通三丁目四八番地

會員番號 一五五〇九番
電話新町(53) 三二一四・五二五三番
振替大阪八四九・東京一六二〇二二番

配給元 日本出版配給株式會社

932
226

終



● ¥1.50